

山 大 医 学 部 病 院 だ よ り

Yamaguchi University
Faculty of Medicine and Health Sciences

Yamaguchi University Hospital

NEWS



白衣着衣式 举行

1
2022

VOL.254

令和四年を迎えて

ご挨拶



山口大学医学部長
篠田 晃

新年明けましておめでとうございます。医学部・附属病院関連の皆様におかれましては、病院ではコロナ禍中の診療、ケア・介護、給食・配膳、事務対応等、体力と精神を消耗する中、家庭では自粛ステイ・ホームと心忙しい年末年始を過ごされたことと拝察いたします。改めて日頃の御尽力と献身に心から敬意と感謝を申し上げます。令和3年も結局、新型コロナウイルス感染症に振り回された一年でしたが、昨年夏の東京オリンピック後にピークを迎えた感染拡大も、全国レベルでの大規模ワクチン接種が功を奏し、患者数と重症化数は急激な減少に転じ始めました。オミクロン株の拡大兆候も窺われますが、変動を伴いながらも今後は収束に向かうことを期待しつつ、平穏で新たな光差す

令和4年となることを願っております。

医学部の教育は、医学科も保健学科も特に高学年では附属病院での実習や学外の病院・施設での実習が主体となり、患者さんと近接して寄り添う機会も多くなります。コロナ禍で十分な実習が行えないため、一般的なりモート教育に加え、文部科学省は仮想現実（VR）空間内実習を視野に置き、デジタルトランスフォーメーション（DX）の促進に力を入れ始めています。山口大学医学部もデジタルを活用した大学・高専教育高度化プランに採用され、解剖・外科教育のDXコンテンツの開発・導入に着手しております。DXの良さを実装化し、十分活用すべき時代が到来しています。その一方で、医学部教育で重要視すべき臨床実習、実践研究参加型教育、対人スキルの向上、授業や課外活動を介在した絆形成等を考えると、やはり対面教育が基本であることも痛感させられております。5年ほど前から山口大学医学部では、外科志向性の強化を図るため、医学科の外科系診療科に協力いただき解剖学実習内に時間をとり、2年生から基本臨床外科手技の早期教育を開始しており、好評

を博しています。また、4年前からは卒後医師のリカレント教育として、特に若手医師の手術手技向上と外科手技開発を目指して、ご遺体を活用した臨床外科研修（CCST）を始めました。昨年度は県内から100名超の若手医師の参加があり、かなりのニーズを実感しているところです。互いの絆を強化するとともに、将来、数多くの腕のいい外科医が輩出されることを願います。外科の強い医学部として益々の信用や評判を獲得できれば、多くの患者さんが来院し、卒業生も率先して山口大学での研修を望み、他県からも多くの優秀な若手医師が集まるのではないかと期待しています。

新型コロナウイルス感染症への対応の中で学ぶこともありました。一つには、「三密回避（人の接触）」「衛生管理（マスク・消毒等）」「健康管理（健康チェック）」といった医療衛生上の基本が、新型コロナウイルス感染症だけではなく、他の感染症の予防にも副次的に大きな効果を発揮していることです。特にマスク着用の慣行はかなり有効なものでしょう。二つ目には、ウイルス感染症対策には、PCR検査、抗原検査もですが、ワクチン接種が決定的であり、ウイルス変異株との攻防戦の決め手であることを再認識させられました。今回遅れをとったワクチン開発は今後日本の必須課題となるでしょう。三つ目には、人の動きが止まれば、モノの動きも止まり、お金の動きも止まり、経済活動も教育活動も社会活動も停止し、社会は機能障害を起こすということです。現代社会の機能や日常生活というものが、お金の流れ以前に、人とモノの流れにより保たれていることに改めて気付かされた次第です。昨年の「辛丑」は辛い時期を凌ぎ、次に来る運気の前段階の年だったのかもしれない。今年（辛寅）は「寅寅」。厳しい冬の後に訪れる春の陽気に新たな生命が芽吹き、胎動を感じ、活力溢れる年になるようです。最後になりましたが、今年が皆様にとって充実感と希望に満ちた輝ける年となり、平穏で健やかに一年を過ごされますことをお祈り申し上げます。





山口大学医学部附属病院長
杉野法広

新年明けましておめでとうございます。昨年の4月から3期目の山口大学医学部附属病院・病院長を務めております。よろしくお願い申し上げます。さて、新型コロナウイルス感染症は、1月に入りオミクロン株による感染が急速に拡大しています。一部の病院では、コロナ陽性患者の受け入れによる診療制限や医療従事者が濃厚接触者となったことにより勤務に從事できず医療提供体制に支障がでています。本院では、これまで通りの高度医療を提供するために、患者さんが安心して必要な医療を受けられる環境、職員が安全に医療を提供することができる環境を整えています。一昨年の4月に立ち上げたCOVID対策チーム(YUMECO)が中心となっています。コロナ禍においても、これまで通りに安心・安全な医療を患者さんに届けるという使命を果たすべく、まさに「チーム山大病院」となり、教職員が一丸となって新型コロナウイルス感染症の対策に尽力して

います。県内唯一の特定機能病院として、「最後の砦」としての役割を果たすべく尽力いたします。山口大学医学部附属病院では、国立大学病院としては初となる2回目の病院再開発整備事業を平成27年度から進めています。その主要事業である新病棟（A棟）は、令和元年の6月24日に開院しましたが、病院整備はまだまだ続きます。昨年の8月からは、B棟（第1病棟）の改修工事が始まっています。工事の影響で通路が狭くなっていることや、騒音や振動などでご迷惑をおかけしております。B棟の改修は、令和5年の秋頃まで続きますが、その後もC棟（外来棟）の改修・整備が令和7年まで引き続き行われる予定です。老朽化・脆弱化が改善され、これまで以上に医療の高度化、専門化に対応できるようにいたしますし、患者さんのニーズにもお応えできるようになります。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。最後にになりましたが、今年が皆様にとってすばらしい年になりますようにお祈り申し上げます。今年も山口大学医学部附属病院をよろしく願い申し上げます。

Topics トピックス

Topic

医学部医学科白衣着衣式を挙行了しました

令和3年12月17日（金）、講義棟 C 第三講義室において、医学部医学科白衣着衣式を挙行し、山口大学医学部同窓会霜仁会（そうじんかい）福本会長、篠田医学部長、杉野医学部附属病院長をはじめとする関係者が列席しました。

本式典は、臨床実習を前にした学生に霜仁会から白衣を授与し、医学生としての決意と自覚を促すことを目的に毎年開催しています。

式では、はじめに篠田医学部長から、「すべての人に敬意を払い、相手の立場に立ち、無償の愛で接しながら、日々精進してください」と訓辞があり、全国医学部長病院長会議認定の Student Doctor（医学実習生）認定証が学生に授与されました。続いて福本会長から、「医療の道は非常にやりがいのあることは間違いないので、勇気を出して一步を踏み出してほしい」と祝辞があり、4年生115名に白衣が授与され、学生は一斉に白衣を身に着けました。

その後、学生代表の瀬戸口貴昭さんが、「医療人となることを志す者としての自覚を高め、頂いた白衣の責任と使命を胸に、日々精進していくことを誓います」と宣誓し、これを受けて、杉野病院長から、「白衣を着ている以上、学生であっても医師と同様に見られるので、医師の一員としての自覚を持ち、これからの臨床実習を有意義なものにしてください」と期待を込めた挨拶があり、学生全員が医学生としての決意を新たに式を終えました。



例年白衣着衣式と合わせて4年生保護者を対象とした保護者会を開催していますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、同式をライブ配信しご家族に映像をお届けしました。

Topic

山口ケーブルテレビ「まちかどNEWS」に第二内科大石景士診療助教が出演

令和3年12月1日（水）山口ケーブルテレビの番組「まちかど NEWS」に第二内科の大石景士診療助教が出演し、間質性肺炎と間質性肺炎外来について紹介しました。

間質性肺炎は肺の組織が固くなることで、酸素の取り込みがうまくいかなくなり息切れや乾いた咳などの症状があらわれる病気です。原因はさまざまですが、精密検査を行っても原因が特定できない場合を特発性間質性肺炎といい、国の指定難病のひとつです。

間質性肺炎の認知度は低く、診断されるころにはかなり進行していることも多く、早期発見と適切な治療の重要性について解説しました。

また、10月に開設した間質性肺炎外来は、完全予約制のため専門的な知識を持った医師がしっかりと時間を取って診断・治療を行うことができることもアピールしました。



Topic

宇部市メディカルクリエイティブセンター見学会を開催



令和3年11月17日（水）、宇部市メディカルクリエイティブセンター（山口大学大学院医学系研究科）の見学会が開催されました。

宇部工業高等学校と宇部工業高等専門学校生徒約20名が参加し、「肝臓再生療法（培養ヒト骨髄細胞肝動脈投与療法）の開発・実用化及びロボット細胞培養システム等の高機能化」について、山口大学大学院医学系研究科消化器内科学講座・高見太郎教授から説明を受け、実際にロボット細胞培養システムを見学しました。

高見教授は「医師だけでは、ロボットのプログラミングなどにはできないため、多くの方の知識・協力のおかげで開発が成り立っています。ここで行われている研究やロボットを見た経験が将来の選択肢のひとつに繋がれば」と述べられました。

Topic

山口大学大学院医学系研究科主催 第4回シンポジウム

「人工知能・システム医学による難治性疾患への新たな挑戦」を開催

令和3年11月27日(土) 山口大学医学部医修館第1講義室/オンラインにて、山口大学大学院医学系研究科主催第4回シンポジウム「人工知能・システム医学による難治性疾患への新たな挑戦」が開催されました。大学院医学系研究科では、平成28年10月にシステムバイオインフォマティクス講座を設置するとともに、平成30年4月には、AI技術とシステムバイオロジーを基礎医学と医療とに実践的に導入することを目的として、医学系研究科及び医学部附属病院に「AIシステム医学・医療研究教育センター(AISMEC)」を設置しました。

本邦の医学系研究科では数少ないシステムバイオロジーを専門とする講座を設立したことを契機として、従来から本学で成果を挙げてきた難治性疾患研究を新たな視点から一層加速し、発症機序・病態の解明と診断・治療法開発に繋げるべく、平成29年からシンポジウムを開催しています。当日は、日本を代表するシステムバイオロジーに関する講師を招き、国内の最新の動向や研究成果について講演が行われました。また、AISMECの活動や医学部附属病院のAIを活用した病院情報システムの更新について報告が行われました。



浅井義之 講師



石田 博 講師



北野宏明 講師



奥野恭史 講師



金子隆明 講師



桜田一洋 講師

Topic

山口大学医学部保健学科育英奨学会への貢献に対する感謝状を贈呈

令和3年10月27日(水) 山口大学医学部保健学科育英奨学会に貢献された岩田隆子山口大学名誉教授(医学系研究科保健学専攻元教授)に感謝状の贈呈を行いました。

篠田医学部長から、岩田名誉教授からのご寄附が保健学科育英奨学会発足の契機となったこと、15年にわたる支援に対して感謝の意が述べられ、感謝状が贈呈されました。

岩田名誉教授は、「奨学金や家庭からの支援を十分に受けることができず、アルバイトをしながら修学する学生に少しでも勉学のための時間をつくって欲しいと支援してきた。保健学科育英奨学会の奨学金が学生のために役立てられて嬉しい。」と述べられました。

保健学科育英奨学会は、岩田名誉教授のほか保健学専攻の教員や同窓会等からの支援をいただき、保健学科及び保健学専攻の学生に平成18年度から貸与型奨学金、令和2年度からは新型コロナ対策の生活支援給付型奨学金による修学支援を行っています。



生まれ変わる 「B棟」

山口大学医学部附属病院は、国立大学附属病院としては「トップランナー」となる2回目の再開発整備事業に着手しています。

再開発整備事業では、「教育・研修」「研究開発・先進医療」「地域医療推進」「病院基盤強化」を基本戦略に掲げて、A棟の建設を2019年に完了し、今後は既存施設の改修を進める予定です。

計画では、B棟（第1病棟）およびC棟（外来棟・新中央診療棟）の改修により既存A棟との連携強化をあわせて計画することでシナジー（相乗効果）を生み出し、外来診療棟等の今後の改修を予想して計画することにより、附属病院全体の機能向上を実現します。

現在は、B棟（第1病棟）の改修を中心に行っています。工事中、患者さんには大変ご不便をおかけいたしますが、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

B棟 整備概要

4床室から3床室へ

すべての病室を4床から3床にすることで、患者さんにゆったりと過ごしていただけるようになります。また、療養中のプライバシーを保護するために、レイアウトを整備、独立した処置室を設置します。快適な療養生活を過ごすことができるように各部屋を整備します。

分散WCとユニットシャワー

3床室にはA棟と同様に各病室前にトイレを設け、日常生活動作の回復を助けます。また、個室（1病室）にはユニットシャワーを設置します。

患者見守り

患者さんの安心感を高め、職員の見守りやすさを向上させるため、重症エリアをスタッフステーションに隣接させます。また、目の届きにくい離れた場所には、サテライトステーションを設置し患者さんとの距離を近づけます。

転倒・転落防止対策

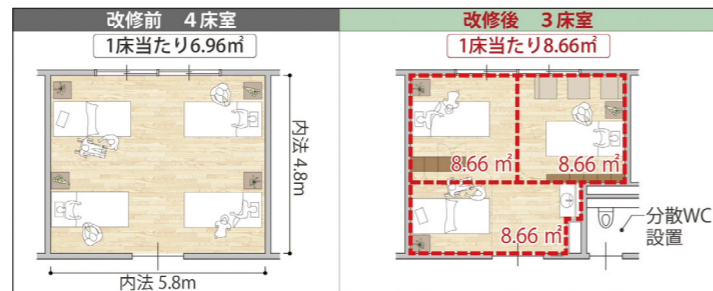
患者さんの転倒、転落を防ぐために、病床横から続く手すりを設置します。その他、トイレ・シャワー室のバリアフリー化、IC Tモニターやセンサーによる見守り設備を設置します。

バリアフリー・ユニバーサルデザイン

バリアフリー設備として病棟廊下に手すりを設置し、安全性を高めます。また、案内表示などにはユニバーサルデザインを採用します。視認性を向上させ、視覚障害者、高齢者、子どもでも移動しやすい環境を整備します。

新病棟の詳細は…

山口大学 再開発 検索
<http://h-seibi.hosp.yamaguchi-u.ac.jp>



4床室と3床室の平面図比較



3床室 イメージベース



スタッフステーション イメージベース

寄附のお願い

本院は、地域医療への貢献を目指して日々努力しております。教育・研究の充実・発展のために、皆さまからの温かいご支援をお願い申し上げます。

皆さまからのご寄附は、このように使わせていただきます。

- 最先端医療機器の導入
- 患者(家族)満足度の向上
- 医療プロフェッショナルの養成



このたび、インターネットによる寄附申し込みを開始しました。くわしくは、こちらをご覧ください。

寄附に関する
お問い合わせ

山口大学医学部 経営企画課 予算管理係
 TEL 0836-22-2023
 E-mail me212@yamaguchi-u.ac.jp



令和4年4月より

歯科口腔外科外来が完全予約制となります



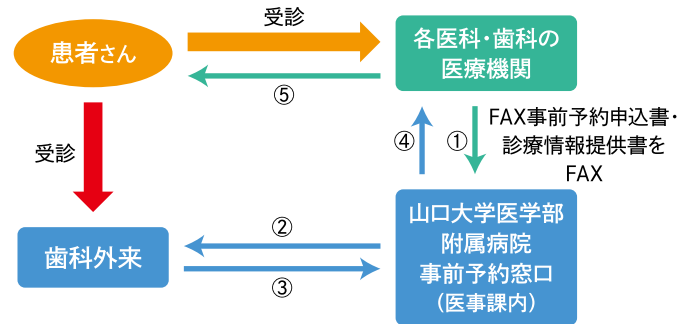
現在日本国内では、人口減少や高齢化、外来医療の高度化等が進む中で、一部医療機関への外来患者さんの集中による待ち時間や勤務医の外来負担等が問題となっています。これを改善するために、令和3年5月に「良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律」が成立・公布され、同法において地域の医療機関の外来機能の明確化・連携に向けて外来機能報告等が医療法に位置づけられ、令和4年4月から施行されることとなりました。

本院においても、「医療資源を重点的に活用する外来を地域で基幹的に担う医療機関（紹介患者さんへの外来を基本とする医療機関）」としての役割を果たすため、外来機能を明確化し、外来診療体制を見直していくこととしています。

このような背景から、歯科口腔外科外来では、令和4年4月から完全予約制となりますのでお知らせいたします。

医科・歯科の医療機関の皆様へ

- 初診診察日は**月曜日、火曜日、水曜日**になります。
- 当科への紹介の際には、必ず事前にFAX事前予約申込書と診療情報提供書のFAXをお願いいたします(①)。
- 診療情報提供書を確認しましたら(②)、疾患に応じて曜日を指定し、本院歯科口腔外科外来で予約をとり(③)、事前予約窓口から連絡させていただきます(④)。患者さんへ当院の受診日時をお伝えください(⑤)。
- 診療情報提供書は患者さんに本院受診時に持参していただくようにご指示ください。



急患対応は変更なく24時間対応します。

「ICU看護師の一日」の 動画が公開されました

この度、ICU看護師（勤続3年目）の一日を紹介した動画を制作しました。朝の申し送りから、清潔ケア、手術の受け入れなどの様子、山大病院での仕事や思いの部分までお届けしています！当院 YouTube「山口大学病院チャンネル」にて公開していますので、ぜひご覧ください。



動画の視聴はこちら

山口大学病院公式 YouTubeチャンネル



公式Facebookページで
山大病院の情報を配信中!!



企画発行 山口大学医学部広報委員会・山口大学医学部総務課総務係
〒755-8505 山口県宇部市南小串一丁目1番1号 TEL 0836-22-2007
医学部 <http://www.med.yamaguchi-u.ac.jp/>
附属病院 <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/>